INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2016

今を摘め

TALK & PRESENTATION

DOCUMENT BOOK

一般社団法人　日本文化デザインフォーラム

JAPAN INTER-DESIGN FORUM

CONTENTS

本年度のテーマは、[Carpe diem= 今を摘め]。
[Carpe diem] は、紀元前１世紀の古代ローマの詩人、
ホラティウスの詩に顕れる語句。その語意は「今の瞬間を楽しめ」。
今を真剣に生きる一人ひとりに「あなたの今」を語って貰います。

総合司会＝中島信也

4/15 FRI

オープニングトーク　アンバランスな時代に	水野誠一	04
REAL TIME HOLIC	箭内道彦	05
On The Fury Road	香山リカ	07
下町・墨田　町工場物語	浜野慶一	09
いろいろあるら（仮）	しりあがり寿	11
わが盲想	モハメド・オマル・アブディン	13
今を暴発させるロックのルーツ	サエキけんぞう	15
クロージングトーク　哲学より美学	黒川雅之	17

7/15 FRI

オープニングトーク　禁忌、タブーに挑む	水野誠一	19
恐れずに神の前髪を掴め！	山田真美	20
チベット仏教美術のバター彫刻	ペマ・ギャルポ	22
個と群	野老朝雄	24
性器についてのひとり言	木内みどり	26
地方から日本を元気にするために	伊東豊雄	28
笑いましょうよ、おかしな日本！	松元ヒロ	30
クロージングトーク　こんなに熱い人たちの話の後で	黒川雅之	32

11/18 FRI

オープニングトーク　多彩な講師陣が楽しみ	水野誠一	33
教育デモクラシー	古賀健太	34
私の襲名	十一代 大樋長左衛門（年雄）	36
憂国呆談ライブ	田中康夫／浅田 彰	38
魔法の瞬間	木村公治	44
クロージングトーク　インティメートな関係	黒川雅之	46

プロフィール	登壇者	47

日本文化デザインフォーラム会員一覧		50

11/18 FRI

憂国呆談ライブ

作家 **田中康夫**／批評家 **浅田 彰**

確かにデザイナーが独り善がりなデザインを上から押しつけることに問題はある。
しかし、それを否定して民主主義が大事とばかり言っていると、デザインは死ぬ……

田中　私は1956年、昭和31年生まれで、浅田さんは同学年で昭和32年の早生まれです。60年後の今年2016年の干支は一廻りして丙申（ひのえさる）なんですね。激動の年といわれています。

で、皆さんご存知の丙午（ひのえうま）はその10年後の昭和41年。昔から丙午の年は出生数が激減し、この時も前年の出生数の7掛けだったんですね。ところが、平成に入ってから、その昭和41年よりも出生数が上回ったことは一度もないのです。現在の合計特殊出生率は1.4台。どんなに子育てや仕事復帰の環境を整えても、人口は横ばいでなく減少していく。オリンピックの開催が予定されている2020年には横浜を始めとする首都圏の政令指定都市も人口が減少に転じ、一極集中と言われる東京も2025年には同様に減少します。にもかかわらず、1億総活躍と声高に語られるのは、逆に言えば、じゃあ既に二千数百万の人はもう要らないのかという話でね。量の拡大から質の充実、さらに質の深化へと発想を大転換しなくてはいけない。年が明けて2017年は革命の年といわれる丁酉（ひのととり）なのに、改革という言葉だけは勇ましく、相変わらず量の維持という古い発想にしがみついているのですね。

浅田　オリンピックをどうすべきかははっきりしている。返上すればいいんですよ。1936年のベルリン・オリンピックの次は40年の東京オリンピックだ、東京万博とダブル開催だと言っていながら、いよいよ戦争が近づいてきたんで返上したという前例があります。

そもそも、36年のベルリン・オリンピックが、それまでの貴族的エリート主義に基づくアマチュア・スポーツの祭典を、国家の祭典にしちゃった。聖火ランナーが国中を回るという演出もそこで始まったし、ナチス党大会の記録映画『意志の勝利』で有名なレニ・リーフェンシュタールによる記録映画『民族の祭典』のために開会式などを演出した面さえある。

田中　競技場で大々的に国威発揚の開会式をやるのも、テレビで同時中継も、ヒトラーのベルリン五輪が最初ですね。

浅田　戦争の後、60年にローマ、64年に東京でやって、敗戦国も立ち直ったことを示す、それはまあいいだろうと思うし……

田中　「平和の祭典」という第一義の目的だったわけでね。

浅田　その後70年に大阪で万博をやったのもいいでしょう。最近で言えば、文化大革命を頂点とする混乱が続いたあと改革開放路線で経済成長に成功した中国が、2008年の北京オリンピックと2010年の上海万博でそれを内外に示したのも同じこと。

逆に言えば、オリンピックや万博はそういう段階で卒業すべきでしょう。日本は人口動態からいっても経済の中身からいっても成熟段階に入っている。それこそ「今日一日を摘め（Carpe Diem）」という段階に来ているときに、もういちどオリンピックだの万博だのというニンジンを未来に吊るし、それに向かって経済成長を加速させようというのは、アナクロニズムですよ。大阪は2025年万博を狙っているわけだけれど、「健康と長寿」の博覧会なんてものに誰が行くのか。それこそ成熟社会の中で長期的に落ち着いて取り組むべき課題でしょう。

オリンピックの歴史に戻って付け加えれば、36年のベルリン大会でオリンピックが国家の祭典になったあと、1984年のロサンゼルス・オリンピックあたりから異様に商業化し、巨額の放映権料に象徴されるビッグ・ビジネスになった。いまだに「アスリート・ファースト」とか口では言っているけれど、じゃあ、今度の東京オリンピックも64年と同じく気候のいい10月10日に始めればいい。それができないのは、アメリカをはじめとする各国のプロフェッショナル・スポーツのTV中継予定で埋まっていない夏休みにしかできなくなったから。

田中　まったくだ。オフィシャルスポンサーの大半は日本企業なのに、アメリカの都合で日程が決まるミツグ君。炎天下の沿道に見に来たおじいちゃんとおばあちゃんは何人倒れるんですかって話でね。

浅田　ここでデザインの話をしておきますか。いま言ったとおり、僕はオリンピック招致自体に反対だったんだけれども、やるんだったらそれなりにきちんとやってほしいと思う。で、2016年東京オリンピック案は、石原慎太郎が盟友だった黒川紀章を切って安藤忠雄を選び、黒川紀章は怒り狂って都知事選に出て討ち死にしたわけだけれど、ベイ・エリアに巨大スタジアムをつくる以外はできるだけ既存の施設を生かしてコンパクトに開催するという安藤案は、素晴らしいとは言えないものの、悪くはなかった……

YASUO TANAKA

AKIRA ASADA

田中　あのとき実は福岡でもやろうというのがあって、それを担当したのが磯崎新さんで、アジアからの玄関口の博多湾に膨大な船を浮かべて、そこを選手村にしようと。一過性のイベントというのは必ずリバウンドがあるんだと。であるならば、恒常的な私たちの営みの中で、秋のお祭り、鎮守のお祭りと同じような一環としてやろうというのを出したんですけどね。

浅田　磯崎新という人は、このコンペは通らないなと思ったときに、すごくいい案を出すんですよ。86年の東京都新都庁舎コンペは丹下健三が勝つに決まっていた。彼は当時の鈴木俊一都知事の選挙の後援会長ですからね。で、コンペの要項には「二棟の高層ビルを建てる」とあるのに対し、磯崎案は冒頭で「高層ビルは採用しない」と宣言する。市民に対して威圧的に聳える高層ビルではなく、広場の延長で市民が語り合う場として、高層を横に倒した形のシティ・ホールをつくろう、と。このアンビルト案は世界の建築史に残るものです。

むろん、丹下健三も巨匠には違いない。64年オリンピックのために彼が設計した代々木のプール（現・代々木競技場）は、世界の建築史に残る傑作ですよ。70年大阪万博のお祭り広場も、超モダンなグリッドだけの建築と言っていたところに、岡本太郎がプレモダンな土偶をポストモダン化したような「太陽の塔」をぶち立てる、この激突も含め、やはり歴史に残るでしょう。70年代初めに死んでいれば、丹下健三は偉大な建築家として歴史に残ったはずです。

田中　そうですね。おっしゃるとおりです。

浅田　丹下健三の新都庁舎も、それなりの迫力はあるにせよ、広島の平和記念公園とか、香川県庁とか、戦後モダニズムを代表する初期の傑作とは比べようもない。その流れであのお台場のフジテレビとかになっちゃうわけですよ。

田中　ガラス張り知事室みたいなものですよ、あそこの香川県庁というのは。

浅田　そう、1階にも屋上（ピア・ホールがあった）にも県民が自由に出入りできる構造ですからね。その時期に丹下門下で実務を担当していた磯崎新だからこそ、新都庁舎では「あなたが当時目指していたのは開かれたシティ・ホールだったはずじゃないか」という問いかけを兼ねてああいう案を出したんでしょう。

そんな磯崎新だから、16年福岡オリンピック案も非常にラディカルだった。スタジアムは要らない、スタジオがあればいい、どうせみんなTVで見るんだから、カメラが360度どこからでも選手を撮れるようなスタジオの方が有益だろう、と。また、選手村すべてというわけではないけれど、宿泊施設はあまりつくらず、田中さんの紹介された通り大型客船を多数停泊させてそれに代える、と。そこには、予選は韓国や台湾でやってもいいだろうという示唆も含まれていた。さらには、そのシステム全体を、キューバでやってもいいし、ペルシア湾でやってもいいだろう、と。

田中　今回も磯崎さんは、皇居前広場で開閉会式を行うべきと主張し続けた。スタジアムで見る人なんてせいぜい数万人で、ネットで見る世界中の人は何十億人だと。ならば旧江戸城の櫓や石垣、濠、そして松林が背後に見える皇居前広場に間伐材で仮設の座席を設けて行えば、日本の東京で行われていると一目瞭然だとね。今上天皇即位10周年の記念式典も行っているからスペース的にも十分実施可能。

浅田　そう、36年ベルリン大会や84年ロサンゼルス大会で肥大化したいまのような開会式はやめる、どうしてもスペクタクルが必要なら皇居前広場でやればいいじゃないか、という提案だったんだけれども。

ともあれ、開催都市の財政基盤を最大の理由として、16年オリンピックの国内コンペでは東京が福岡

を下した。で、安藤忠雄の16年東京オリンピック案は、素晴らしいとまでは言えないものの、エコロジカルな発想で、悪くはなかったんですね。しかし、16年オリンピック招致合戦で、東京はリオ・デ・ジャネイロに敗れた。そこで手を下ろせばよかったわけだし、安藤忠雄も手を引けばよかったんです。ところが、20年オリンピック招致にも挑戦するということになり、意外にもそれが通ってしまった。本当はイスラム圏との融和という意味でイスタンブールが最適だったのに、エルドアン政権の強権支配によってトルコが政治的に不安定化し、それならマドリッドかと思っていたら、ユーロ圏の危機でスペイン経済も怪しくなって、仕方なく安全パイとして東京が選ばれたわけです。

で、メイン会場の国立競技場を建て直すということになり、安藤忠雄もおそらく鈴木博之らに引っ張られてコンペの審査委員長になってしまった。そして、ザハ・ハディド案を選んだわけですよ。ついでに言っておくと、例えば妹島和世案はいかにも現代的なものだったし、田根剛案も丘みたいなイメージで面白かった。ただ、そうした実験的な案ではなく、ザハのダイナミックな案を選んだこと自体は、決して変なことではないと思います。

その後で、しかし、建設費膨張が問題になり、大騒ぎになるんですね。そもそも、このコンペはインチキなんですよ。設計者ではなく「デザイン監修者」を選ぶということになっている。要するに、デザイン・イメージを出してください、あと実質的なことは日本の設計会社と建設会社、要するに日建設計と大成建設・竹中工務店でやります、という形なんですよ。僕は設計者が最後まで責任をもってやるべきだと思うので、この仕組みに反対ですが、しかし、そうやってザハを棚上げしてしまった以上、予算管理ができなかったのは日本側の問題です。

田中　だから、あのときも「日本凄いぞ論」の産経新聞とか、イラク出身と書けばディスりになったんですよ。でも、必ずイギリスと書くんですよ。ここら辺に欧米コンプレックスがあるわけですよ。そんなにザハ・ハディド案が嫌だったら、「イラク出身者が」と書けば、それだけで単純なネトウヨの人たちはブギャーと言ってお怒りになったはずなんですよ（苦笑）。

浅田　逆に言うと、イラク出身の女性を日本が国立競技場の設計者に選ぶというのは格好いいの。

田中　そうです。もちろん、おっしゃるとおり。

浅田　ついでに言っておくと、ザハを世界的に発見したのは磯崎新です。香港でサミット・ピークというリゾート施設のコンペがあって、ザハの案はあまりに実験的だというので予選段階で落とされていたのだけれど、審査員の磯崎は落ちた案も全部見て、ザハ案は面白いと思い、他の審査員を説得して、ザハ案を選んだ。残念ながらそれはクライアントが……

田中　そうそう、その富豪が経営危機に陥って、実現しなかったんですね。

浅田　そう。だけど、ザハは一躍有名になり、世界的に活躍し始めるんですね。で、「アンビルトの女王」とも言われるんだけれど、裏を返せばけっこうフレキシブルで、十くらいの案で一くらい実現できればいいというか、ロンドン・オリンピックのアクアティクス・センター（水泳競技場）でも、最初の構想よりずっと縮小されているものの、けっこううまくできています。新国立競技場だって、そうやればうまくできたでしょう。ところが、予算を管理するはずの日本側で、森喜朗をはじめとするドンたちが「プーチンはソチ・オリンピックで3兆円も4兆円も使った、日本が国家プロジェクトとしてやるんだから予算なんか青天井だ」と言わんばかりに予算を膨らませていった。で、それに対する批判が高まってくると、「過激な案にこだわるザハが悪い」「それを選んだ安藤も無責任だ」という責任転嫁に走り、マス・メディアもまんまとそれに乗せられてザハ叩きに走った。信じがたく愚劣な光景でした。

たしかに、建築家が独善的なデザインをユーザーに押しつけ、使いにくいものばかりが建つ、という問題はある。じゃあ、民主的な合意に基づき、いちばん安くつく案を選べばいいのか。それだと、64年に丹下健三が建てた代々木競技場のような歴史に残る建築はできない。小池百合子新都知事が「無駄なお金の使い方はやめよう」と言っている、それもある程度筋は通っているけれど……

田中　彼女は「もったいない」の発想だけだからね。しかも築地・豊洲問題も含めて自分の方針を打ち出さずに、過去の責任追及をして問題先送りをしているだけ。

浅田　少なくとも、そればかり言っていると、レガシーとして残るようなものは作れないでしょう。

田中　まったくね。

浅田　そのために専門家の審査委員がコンペで選んでいるんですよ。そうやって国際コンペで公式にザハ・ハディド案を選んだ。その後、とつぜん安倍晋三首相が出てきて「予算が膨張して収まりがつかないからこれはチャラにします」と宣言し……

田中　なあなあで何事も済ませてきた日本は、コントラクト＝契約とは何かという事がわかっていない。

浅田　しかも、「予算に責任がもてるよう日本の建設会社と組んだ設計者だけでコンペをやりなおします」と。こうなると外国人やアトリエ派の建築家は事実上排除される。そして、木で和の雰囲気を出すとか要綱に書いてあるのを見て、隈研吾でいくんだろうなと思っていたら、案の定、隈研吾と大成建設が選ばれた。予算膨張を理由にザハを引きずりおろしたあげく、予算膨張の責任の一端を担う大成建設が前より楽にやれる結果になったわけです。

田中　クマだから冬眠しているのかと思ったのに、冬眠していないですね（笑）。

浅田　それどころか、日本中で建てまくってますよ。

田中　何か今、冷たい笑いが会場を覆ったので、結構今日は工作員が入っているのかもしれません（爆笑）。

浅田　確かにデザイナーが独り善がりなデザインを上から押しつけることに問題はある。しかし、それを否定して、民主主義が大事、おカネの無駄遣いはいけない、とばかり言っていると、デザインは死ぬ……

田中　手続き論という形式知ばかりをアリバイ作りで重要視する。

浅田　しかも、その結果が大成建設の勝利なんですからね。隈研吾が標榜する「負ける建築」というのは、あまり自己主張せず、周りの環境を柔道の受け身のような感じでうまく受けとめる建築ということでしょうが、実際は「長いものには巻かれろ」ということ、大成建設としても御しやすくていいでしょう。

田中　でも、日本以外の社会から見ればルールのない国だと捉えられ、日本異質論という話になってきたからね。

浅田　そう、新国立競技場問題は、ザハの敗北であるどころか、日本の建築界の、さらには日本社会全体の、致命的な敗北というべきでしょう。

田中　だから、僕、すごい不思議でしようがないのは、最近はオリンピック関連じゃない建物もばんばかつくっているじゃないですか。資材も工賃も暴騰しているのに。僕が仮に金持ちのオーナー経営者だったら、今、ビルなんか建て直さないと思うんですよね。耐震にとりあえずなっていたら、2020年から始めたほうがよっぽど工賃が安くなるし、よっぽど優秀な技術者が来てくれるのに、何でみんなインフルエンザにかかったかのように、自分の建物をオリンピックで使うわけでもないのに、威張りでつくっているのかなって。

もう1個言うと、最近、レジェンドだのレガシーとか言っているんだけど、それは後からお駄賃として付いてくるものでしょ。僕が幼い頃に信州博覧会というのを松本で開いたんだけど、人気がなくて誰も来ないわけ。

浅田　（笑）。

田中　そうすると、勝手に――僕が小学校のときですよ。県の企画だったみたいなんだけども、来場目標数にいかないとなると、小中学校に無料チケットを配って、みんな社会科見学で行って、信州博大成功と報じられた。だけど、僕、変だなと思ったんですよ。これって机上の空論な計画経済じゃないのって。人数いかなかった事実を直視した方が、展示の中味が魅力的じゃなかったのかな、時期が悪かったのかな、

そもそも博覧会をやった意味があったのかな、って話になるのに、人数が「達成」されると万歳三唱で議論にならないんですよね。

開く前からレジェンドとかレガシーと言っている人たちも、どこか後ろめたいからレガシーだのレジェンドって片仮名を使ってるんじゃないのかなって気がしてならないの。

浅田　いや、そんな良識はないよ。

田中　ないか（爆笑）。

浅田　とにかくお金を使いたいだけ。

田中　デザインは浅田さんのほうが詳しいので、少し言うと、じゃあ、例えば豊洲に関しても、どこに――落としどころという言葉は非常になあなあの密室的な雰囲気で嫌なので言い換えると、着地点は具体的にどこかということをバイネームでリーダーが言わなきゃいけないはずでしょ。

なのに、まさに宙ぶらりんになったまま、結局今日（11月18日）になって言うことは、豊洲になるんだったら再来年の冬ですとかね。今後の水質調査で判断すると言うけど、そもそも発がん性物質のベンゼンが2001年に環境基準値の1500倍、2008年には4万3千倍も計測されている場所だからね。問題先送りでなく、豊洲に移転するのか、築地を再整備してフィッシャーマンズワーフにするのか、もっと他の場所にするのか、着地点を首長が示して、それに対して都民が賛成・反対、いやもっとこういう方策を考えよ、と述べるのが筋でしょ。

既に就任から100日が経った。このままじゃ半年経っても、築地問題に限らず、なにも歩み出さずに、かき回しているだけで時間が過ぎて、投じられる税金だけが増えていく。まあ、1人当たりの魚介類消費量がアメリカの3倍もあって、交番やカラオケと並んでTSUKIJIが世界用語になっていることを考えれば、答えは明白だと思うんだけどね。

コンサルタントや大学教授といった外人部隊が都庁に乗り込んで来て発言しているけど、彼らは何の権限も責任もないわけで、大切なのは前例踏襲で眠っていた職員に、やる気を出して貰える環境設定。なのに最初から北風を吹かせるばかりなのは、マスコミは大喜びだけど、その先はどうかな。

彼女が今日になって日経ビジネスのネット上で。民間ではできないようなことだったらやりませんと言うんだけど、これは大きな間違いです。だって、皆さん、民間では採算が取れなかったら、公立学校の公教育は誰がやるんですかということです。あるいは今言われているのは、ネーミングライツだけじゃなくて、水源地の水源というもの、あるいは上水道というものを民間にやらせましょうと言うけど、じゃあ、その人たちは本当に水道を100年単位で安定供給するんですかということです。すなわち、これは私の師匠でもある宇沢弘文という方がずっと言った社会的共通資本ということで、それは水であるとか森であるとか川という自然環境、あるいは道路であるとか、あるいは教育とか、あるいは金融とか、そういうものは誰か特定の人の所有物、所有者や従事者や供給者のものなのではないと。それはみんなの社会的共通資本であって、その社会的共通資本を維持するんじゃなくて、より良くするために税金というものがあるんだということなんですね。

浅田　端的に言って民間でできることは民間がやればいいので、できないことを公共がやるわけですよ。

ともあれ、オリンピックは招致すべきじゃなかったと思うけれども、やるんだったら徹底的に見直してできるだけ簡素にしたほうがいい、その一点では小池都知事をあえて支持します。

そもそも、カネまみれで肥大しきったオリンピックは限界に来ている。また、一方でウィキリークスやパナマ文書に見られる通りこれまで秘密だったものも暴露されるようになり、他方でアメリカをはじめとする国家も情報網を通じて世界を統制しようとするようになって、裏金だってバレてくるでしょう。東京オリンピック招致にあたって元国際陸連会長の息子が関係するシンガポールの会社に電通が2億円以上の「コンサルタント料」を払った件も、そうやって露見し、フランスが捜査を進めている。長野オリンピックの招致でも、裏があったわけでしょう？

田中　当時のサマランチIOC会長らを特別列車で上山田温泉に招いた招致活動の帳簿を焼却したのが県民のトラウマになっていた。でも、役人というのは書類を捨てたりしないんですよ。で、「長野県調査委員会」が帳簿を見つけ出した。長野地裁が県の指定金融機関に銀行口座の開示を求めて、帳簿との照合も行って接待視察旅行の内訳も明らかになった。招致の音頭を取った地元メディアは困り果てていましたけどね。

もう1個、博報堂の多大なる努力のもとで今日のイベントも開かれているんだけど、そのライバルと言われている電通の問題もね、本質が語られていない気がするの。だって、厚生労働省は鬼の首を取ったかのように言っているけど、年金の問題が騒がれていた当時に社会保険庁の人はブラック企業的な徹夜をしなかったんですかと。ハローワークのスタッフも7割近くは非正規雇用者。不安定な身分の非正規なのに公務員扱いなので、労働基準法も労働保護法も適用外。厚労省こそブラックなのにマスコミはスルーだから、信じられないね。

それとね、深夜2時まで働いたら翌日は13時以降と言った具合に、労働の終了から開始まで11時間の間隔を義務付けるEUと同じ「勤務間インターヴァル制度」を導入すべきという論調が大半だけど、どうかな。職住近接ではない日本では、港区と鎌倉在住では通勤時間の差も大きくて、睡眠時間も違うしね。CMの撮影も雑誌の校了も3日間、睡眠時間3時間で対応する場合もあるし、「クリエイティヴ」な職種には非現実的な制度でしょ。

人事コンサルタントや学者は事細かなルール作りを求めるけど、災い転じて福となすべく、電通はシンプルでインパクトのある働き方と休暇のあり方を世に打ち出すべきだと思うよ。間隔を11時間とすべきかどうかは議論の分かれるところだけど、少なくともインターヴァル条項に満たぬ時間数を合算し、通常の休日や有休とは別に翌月に休みを所得可能とする新しい発想を導入するのが第一歩。とは言え、それだと翌月が殆ど「毎日が日曜日」になってしまって同僚にも迷惑を掛けてしまうと思い悩むのが日本の働き蜂だから、例えば最大2年間、超過労働時間数をポイントとして貯金し、長期間のヴァカンス取得を可能とする制度も創設するのはどうだろう。

浅田　締め切り前だったら、出版社であれデザイン会社であれ、徹夜で仕事をすることはある。納得のいく仕事をするためにそうしたいという人もいる。形式的なインターヴァル規制でそれができなくなると困る場合も多いでしょう。田中さんの言われるような形で労働時間を融通して、締め切り後には2日くらい休むとか、そういうフレキシブルな形にしないと……

田中　本人の同意書だけいつももらえばいいわけであってね、サインを。

浅田　というようなことを言いながら、われわれも予定の時間をちょっとはみ出してしまいました。時間も忘れて語り呆けるというのがタイトルなんですが、一応こんなところでしょうか。

田中　「REALKYOTO」というサイトがあって、さまざまな浅田さんのお考えをお読み頂けます。あるいは私の「tanakayasuo.me」でも、番組でしゃべったこととか全部文字起こしになっています。四半世紀続く二人の「憂国呆談」は毎月5日発売の『ソトコト』に掲載されています。バックナンバーは『ソトコト』ホームページでも載せていますから、またごらんいただければと思います。ということで……。

浅田　長くなりましたが、どうもありがとうございました。